



自主防災組織を結成し、
地域で取り組む
「防災には地域の力が必要」
浦添市仲西自治会長
島田 勝男さん

毎年実施している地域の避難訓練をする中で実感しているのは、自分の力で避難できない人をどう避難させるかという事です。その時に必要なのは若い人たちの力。もしもの時の為に彼らを含め、ぜひとも多くの地域住民の皆さんに訓練に参加してほしいと思います。

自治会では、防災訓練をする半年前から自治会便りなどで広報活動に取り組み、住民や社会福祉協議会の人たちを含め300人を超える人が集まって訓練を行ったこともあります。

それでも、実際の災害が起きたときはより多くのエネルギーを必要としますので、一人でも多くの皆さんに防災意識を啓発していきたいと思っています。

災害時の情報発信

災害時で大切なのは情報を共有することです。市では公式ホームページをはじめとして、その他、公式アプリやSNS等を利用し情報発信を行っています。



UraCoLo(うらコロ)

浦添市の公式アプリです。通常時の行政情報発信をはじめ、災害時には様々な情報をプッシュ通知で直ちに情報を発信します。



iOS



Android



facebookページ名「浦添市役所」

浦添市では日頃の情報発信の手段としてfacebookを活用していますが、もちろん災害情報を発信することもできます。



twitterアカウント名「浦添市役所」

主に行政情報やイベントの告知をメインに発信していますが、災害時に情報発信媒体として非常に有効です。



防災情報速報メール配信サービス

市からの防災・行政情報を迅速にお届けします。メールアドレスをお持ちの人はどなたでも利用できます。
※QRコードの読み取りができない場合はbousai.urasoe-city@raidai.ktaiwork.jpへ空メールを送信してください。



防災行政無線

市内24カ所に設置しているスピーカーから緊急情報を一斉放送しています。



浦添市では台風接近など災

響は大きなものとなっています。
地域防災計画に基づいた台風等
災害時の対応

害が発生し、または発生するおそれがある場合には、災害警戒本部や対策本部が設置されます。市は、応急組織を編成し、市域における災害に対する警戒および応急対策を実施し、緊急時に職員が待機し、必要に応じて迅速な対応を取ります。

自助・共助・公助の精神

災害対策を行政のみで実施するのは不可能があります。災害に強く安全・安心なまちづくりを実現するためには、自助・共

助・公助の精神のもと、行政をはじめ、市民、地域、事業所等においても防災体制の充実・強化が求められています。

それぞれの連携と適切な役割分担をした上で防災対策を講ずることが重要です。

地域においては、あらゆる災害に対応できるよう、自主防災組織が立ち上がっているところもあります。平成27年現在、結成されているのは5団体にとどまっています。自主防災組織の活動は地域防災の要であり、

地域防災力を高め災害に強く安全・安心なまちづくりを実現するためには欠かせない存在です。そのため、市民の防災意識の高揚を図り、地域住民等による自主防災組織の結成を一層促進するため、市では、「まちづくりふれあい出前講座」に防災講座を設け、自主防災組織の作り方や防災全般について説明する取り組みを行っています。

市民便利帳と防災タウンページ
台風等の災害対策を掲載。万が一の備えにご利用を!!



■防災特集 災害に備える

沖縄は言わずと知れた台風が多く直撃する島です。台風が直撃する事に慣れた沖縄ではありますが、台風は自然災害の一つであり、甚大な被害をもたらすことを認識しなければなりません。一人一人の台風に対する意識や直撃に備えた準備行動。被害を最小限に抑えるために、私たちは何をすべきでしょうか。

災害リスクの高まり

平成23年3月の東日本大震災、今年4月には熊本地震が発生。いずれも我が国に甚大な被害をもたらされました。

最近では地球温暖化などが原因とされるゲリラ豪雨、洪水に高潮、土砂災害と、誰の身にも災害が降りかかるリスクが高まっています。

そうした中、高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児、病人等の避難行動要支援者への対応や広域的な応援・支援体制づくりなどが課題となっています。

本市では、そういった課題などにも対応すべく「地域防災計画」を策定するなどし、防災体制の充実や防災情報の収集・伝達が行える仕組みづくりに取り組んでいます。

台風災害

8月から10月が最も発生しやすい時期で、ひとたび台風が直撃すると農作物は壊滅し、街路樹は倒木、草木の散乱、暴風による飛来物で事故や怪我なども多数発生します。また、停電や断水など、ライフラインが遮断され、私たちの生活に及ぼす影